

第**204**期 中間報告書

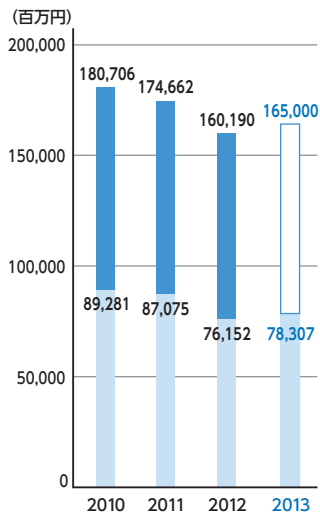
株主通信

平成25年4月1日～平成25年9月30日

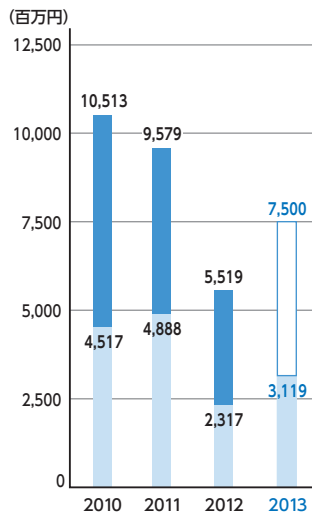


業績の推移

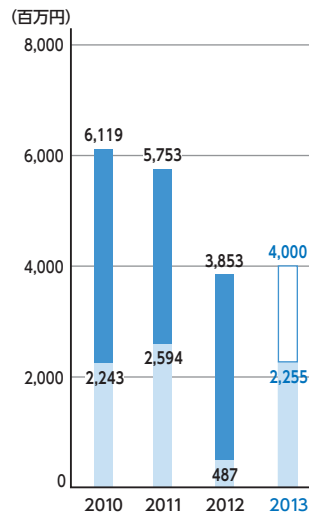
■ 連結売上高



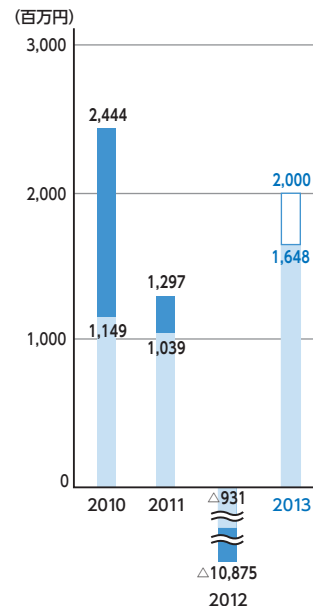
■ 連結営業利益



■ 連結経常利益



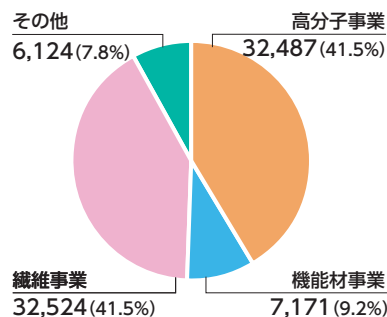
■ 連結当期純利益



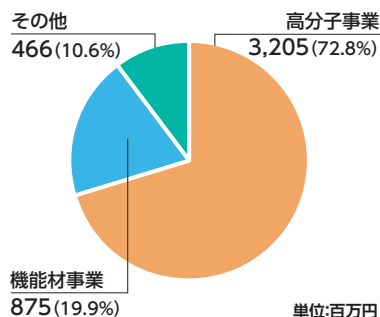
■ 通期 ■ 第2四半期累計 □ 通期予想

■ セグメント別 当第2四半期累計期間における連結売上高・連結営業利益

連結売上高 (構成比)



連結営業利益 (構成比)



単位:百万円

連結売上高

合計 78,307百万円

連結営業利益

合計 3,119百万円

※セグメント別の連結営業利益及び構成比は、調整額調整前の数値で表示しております(合計4,404百万円)。

※「繊維事業」の連結営業利益は損失となっておりますので、構成比で表示していません。

※記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しています。

株主のみなさまへ

株主のみなさまには、日ごろよりご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、第204期第2四半期連結累計期間(平成25年4月1日から同9月30日まで)の業績につきまして、ご報告申し上げます。

当第2四半期連結累計期間のわが国経済は、政府が主導する経済政策や日本銀行の金融政策の効果、堅調な米国景気と円安による輸出環境の改善、個人消費にも回復の兆しが見られるなど緩やかな回復基調に転じましたが、エネルギーコストの上昇や中国の景気減速の懸念が依然残るなど、先行き不透明な状況で推移しました。

このような状況の下、当社グループは、中期経営3カ年計画『Change & Challenge '14』に掲げる成長戦略などの施策や価格改定といった事業環境の変化に対応する施策を早期に実行し、高分子事業を中心とする機能資材メーカーとしての基盤強化や低採算事業の収益改善に努めてまいりました。この結果、当第2四半期連結累計期間につきましては、売上高は78,307百万円(前年同期比2.8%増)、営業利益は3,119百万円(同34.6%増)、経常利益は2,255百万円(同362.2%増)、当期純利益は1,648百万円(前年同期は931百万円の損失)となりました。

なお、中間配当につきましては、引き続き見送ることとさせていただきますので、何とぞご了承賜りますようお願い申し上げます。

今後につきましては、景気回復の兆しが見えている中、事業環境における市場の変化を確実につかみ取り、成長戦略の推進、あらゆる面からの更なるコストダウン、低採算事業の収益改善及び資金効率の向上を当期の全社共通方針として個別の施策を実行し、収益の改善を目指します。

株主のみなさまにおかれましては、今後とも一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

平成25年12月



代表取締役社長 安江 健治

フィルム事業では、包装分野は、緩やかな需要の回復局面にあり、販売数量、売上げともに増加しました。一方、工業分野は、電気・電子機器用途の回復の遅れにより、販売数量、売上げともに減少しました。また、原燃料価格の上昇に伴う製品価格改定を行いました。効果発現までのタイムラグもあったため、事業全体で増収減益となりました。

樹脂事業では、ナイロン樹脂は、自動車用途の販売が堅調に推移し、当社独自のポリアリレート樹脂「Uポリマー」や共重合ポリエステル樹脂「エリーテル」は、スマートフォンなどの情報端末機器用途で堅調に推移しました。また、前期に本格的に販売を開始した環境配慮型の水性エマルジョン「アローベース」の拡販が順調に進捗しました。この結果、事業全体で増収増益となりました。

不織布事業では、ポリエステルスパンボンドは、建築資材用途が伸び悩みましたが、除染廃棄物処理用の「エルベスキャッピングシート」などの受注が増加し、輸出の採算改善もあり、収益は増加しました。コットンスパンレースは、猛暑の影響から



除染廃棄物処理用建築資材 「エルベスキャッピングシート」 バイオマスプラスチック「テラマック」 幼児用食器「iiwan」

ウェットシート用途の販売数量が回復するなど、売上げは増加しましたが、製造コスト等の上昇などにより、収益は減少しました。この結果、事業全体で増収増益となりました。

バイオマスプラスチック「テラマック」は、フィルム、樹脂、不織布、繊維の各分野で積極的に展開しています。フィルム・樹脂分野で販売数量は若干減少しましたが、不織布・繊維分野で回復し、反転の兆しが見えつつあります。

以上の結果、高分子事業の売上高は32,487百万円(前年同期比6.3%増)、営業利益は3,205百万円(同6.9%減)となりました。



直線カット性で開封性に優れる
ナイロンフィルム「エンプレムNC」



「Uポリマー」使用
自動車ターンランプ アンバーキャップ

■高分子事業 売上高・営業利益

売上高

合計 32,487百万円

営業利益

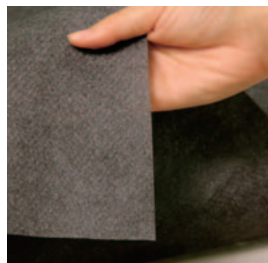
合計 3,205百万円

ガラス繊維事業では、産業資材分野の建築・土木改修用途が堅調に推移するとともに、その他の用途でも需要がやや回復し売上げが増加しました。電子材料分野のICクロスは、スマートフォン用途への販売強化が奏功し、採算が改善しました。ガラスビーズ事業では、工業用途は市況が回復したため販売数量が拡大し、ロードマーキング用途も需要回復により売上げは増加しましたが、反射材用途は欧州の市況が依然回復せず売上げは伸び悩みました。また、活性炭繊維は、水栓内蔵型などの浄水器用途、自動車用途、廃液処理用途が堅調に推移しました。

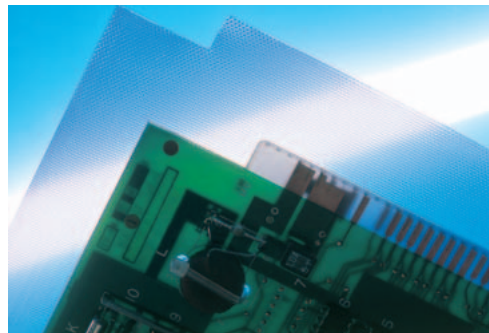
以上の結果、機能材事業の売上高は7,171百万円（前年同期比2.1%増）、営業利益は875百万円（同86.3%増）となりました。



ガラスビーズ「ユニビーズ」
使用道路（白線）



高性能VOC除去シート



プリント配線基板用ICクロス



活性炭繊維フィルター「デキシーフィルター」

■機能材事業 売上高・営業利益

売上高

合計 7,171百万円

営業利益

合計 875百万円

産業繊維事業では、ポリエステル高強力糸は、主力の建築・土木分野で震災復興の遅れや市場での競争激化などから低調に推移しましたが、ポリエステル短繊維は、特殊バインダー繊維などで輸出を中心に需要が増加し、収益は改善しました。アスベスト代替のセメント補強用ビニロン繊維は、新興国での拡販に努めた結果、受注は増加しましたが、主要な販売先である欧州の市況は依然低迷し、全体としては販売数量の回復には至りませんでした。また、ビニロンフィラメントは、北米向けの輸出が堅調でしたが、欧州向けの輸出は低調に推移しました。

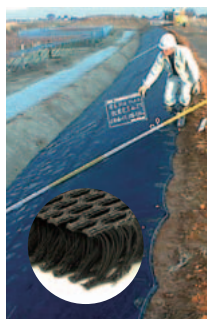
衣料繊維事業では、ユニフォーム分野は、白衣・サービスユニフォームは引き続き堅調でしたが、ワーキングはアパレルの在庫調整などにより売上



カーシート用途



建設資材用途



土木用途



衣料用途

げが減少し、円安による海外生産品のコスト上昇などにより、収益も減少しました。また、スポーツ・レディス分野は、海外品との競合により減収となりましたが、高付加価値品の販売は堅調に推移しました。

以上の結果、繊維事業の売上高は32,524百万円(前年同期比1.1%減)、営業損失は142百万円(前年同期は348百万円の損失)となりました。

■ 繊維事業 売上高・営業損失

売上高

合計 32,524百万円

営業損失

合計 142百万円

生活健康事業では、発売10周年の記念キャンペーンを実施した健康食品「白幻鳳凰」や機能性食品原料のラクトビオン酸、アラビノースは堅調に推移しましたが、飼料原料、セラミドを中心とした食品原料は低調で、売上げは伸び悩みました。メディカル事業では、医用材料分野は、新製品クワッドルーメンタイプの販売が順調な循環系カテーテルや排液系カテーテルの売上げが伸長し、生化学分野は、酵素が欧州向けの輸出が回復するとともに、診断薬は国内向けの売上げが伸長し、収益は増加しました。

不動産関連事業では、マンション販売が堅調に推移しました。

以上の結果、その他の売上高は6,124百万円（前年同期比8.3%増）、営業利益は466百万円（同135.4%増）となりました。



健康食品



医用材料



臨床検査薬



不動産関連事業

■ その他 売上高・営業利益

売上高

合計 6,124百万円

営業利益

合計 466百万円

四半期連結貸借対照表(要旨)

(単位：百万円)

科 目	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第2四半期 連結会計期間 (平成25年9月30日)
(資産の部)		
流動資産	100,274	105,255
固定資産	154,779	155,701
有形固定資産	148,428	149,656
無形固定資産	815	908
投資その他の資産	5,535	5,136
資産合計	255,054	260,956
(負債の部)		
流動負債	138,562	134,394
固定負債	95,173	102,554
負債合計	233,736	236,948
(純資産の部)		
株主資本	18,663	20,311
その他の包括利益累計額	△ 854	△ 28
少数株主持分	3,508	3,724
純資産合計	21,317	24,007
負債純資産合計	255,054	260,956

純資産

240億**7**百万円

(前期比 26億90百万円 増)

純資産は、前連結会計年度末に比べ2,690百万円増加し、24,007百万円となりました。これは、主として利益剰余金が増加したことによります。

(注) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しています。

四半期連結損益計算書(要旨)

(単位：百万円)

科 目	前第2四半期 連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)	当第2四半期 連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)
売上高	76,152	78,307
売上原価	61,980	63,714
売上総利益	14,171	14,592
販売費及び一般管理費	11,853	11,473
営業利益	2,317	3,119
営業外収益	575	1,072
営業外費用	2,405	1,936
経常利益	487	2,255
特別利益	638	462
特別損失	648	501
税金等調整前四半期純利益	478	2,216
法人税等	1,415	546
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益調整前四半期純損失(△)	△ 936	1,669
少数株主利益又は少数株主損失(△)	△ 5	21
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△ 931	1,648

(注)記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しています。

営業利益

31億19百万円

(前年同期比 8億1百万円 増)

高分子事業を中心とする機能資材メーカーとしての基盤強化や低採算事業の収益改善に努めて参りました結果、営業利益は3,119百万円となりました。

四半期連結キャッシュ・フロー計算書(要旨)

(単位：百万円)

科 目	前第2四半期 連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)	当第2四半期 連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー	5,234	1,383
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 1,734	△ 1,545
財務活動によるキャッシュ・フロー	6,770	6,525
現金及び現金同等物に係る換算差額	△ 8	157
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	10,262	6,520
現金及び現金同等物の期首残高	15,339	19,636
現金及び現金同等物の四半期末残高	25,601	26,157

(注)記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しています。

日本化学会「優秀講演賞(産業)」を受賞

「ポリイミド=シリカナノコンポジット多孔体」

ユニチカと独立行政法人 産業技術総合研究所 ナノシステム研究部門 ナノケミカルプロセスグループが共同開発した「柔軟で耐熱性に優れたポリイミド=シリカナノコンポジット多孔体」について、日本化学会 第93回春季年会(2013年)にて発表し、「優秀講演賞(産業)」を受賞しました。ポリイミドとシリカからなるこの多孔体は、空隙率が高いことに加え、柔軟性、耐熱性、耐薬品性、難燃性に優れるなど汎用ポリマーにはない特徴を有しています。また、セラミックス系の多孔質材料と比較しても非常に軽量であることから、軽量性や耐熱性が求められる部位での断熱材料や絶縁材料としての用途展開が可能であり、省エネルギーや電子材料の特性向上への貢献が期待されます。



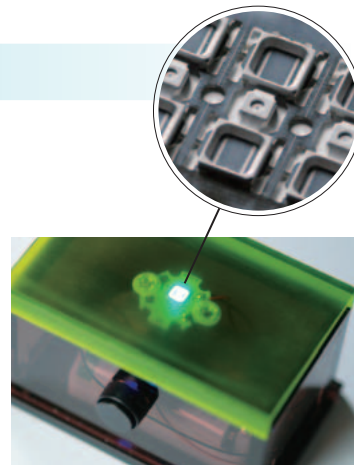
【お問合せ先】 中央研究所 重合・合成グループ TEL:0774-25-2282 FAX:0774-25-2780
Uイミド事業開発部 生産開発グループ TEL:0774-25-2209 FAX:0774-25-2230
【当社ニュースリリース】 <http://www.unitika.co.jp/news/function/130528-000515.html>

生産能力を年産500トンに増強

「XecoT®/ゼコット®」

耐熱ポリアミド樹脂「XecoT/ゼコット」は、原料の50%以上に非可食の再生可能なバイオマス由来成分を使用する環境に配慮した素材です。大きな特徴として世界最高レベルの耐熱性(融点:310℃以上)を誇り、すでに電気・電子分野、自動車用分野、耐久・高強度分野などで拡販を図っています。特に、LED用途では、高い評価を得ており、LEDリフレクター用途で新規採用を見込んでおります。

すでに2012年夏に中量産設備が稼働しており、さらなる事業拡大及び独自の連続生産技術構築のため2014年夏までに年産500トン規模の生産を行います。その後は、年産5千トンレベルでの事業展開を見据えて電気・電子分野、自動車分野などでのさらなる用途拡大を推進します。



【お問合せ先】 樹脂事業本部 大阪エンブラグループ TEL:06-6281-5541 FAX:06-6281-5849

ユニチカグループの紹介

ユニチカトレーディング・ベトナム

ユニチカトレーディング・ベトナムは、2013年8月26日に設立され、9月に業務を開始しました。ユニチカグループの長期ビジョン“ビジョン2020”で掲げるグローバルな事業展開を推進すべく、成長性が高いベトナムにおいて、主力であるユニフォーム事業を中心とした衣料分野での展開とともに産業資材分野でのビジネス構築に取り組み、事業拡大を図っていきます。また、アセアン地域全体においても積極的なオペレーションを展開していきます。

【会社の概要】

社名：UNITIKA TRADING VIETNAM CO., LTD
 代表者：吉田 栄治
 事業内容：繊維原料、各種繊維製品、
 産業資材、生活関連用品の
 生産及び販売
 所在地：ベトナム社会主義共和国
 ハノイ市
 設立：2013年8月26日
 資本金：US\$ 360,000
 出資者：ユニチカトレーディング
 株式会社 100%



UNITIKA TRADING VIETNAM CO., LTD
 Room 601, 6th Floor, Indochina Plaza Hanoi, 239
 Xuan Thuy, Cau Giay District, Hanoi, VIETNAM
 Tel. +84 (4) 3795-4230

株式の状況 (平成25年9月30日現在)

- 発行済株式の総数 577,523,433株
- 株主数 58,575名
- 単元株主数 50,390名
- 大株主

株主名	株式数	持株比率
株式会社三菱東京UFJ銀行	23,345千株	4.04%
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	17,539	3.04
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	16,352	2.83
ユニチカ従業員持株会	12,075	2.09
大同生命保険株式会社	8,000	1.38
東京海上日動火災保険株式会社	6,498	1.12
ユニチカ共栄会	6,081	1.05
日本生命保険相互会社	5,895	1.02
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	5,758	0.99
ルディ・ス・セ・サ・リ・イ・ズ (1-111-1111-1111-1111-1111-1111-1111-1111)	5,500	0.95

(注) 持株比率は自己株式(775,023株)を控除して計算しております。

会社の概要 (平成25年9月30日現在)

社名 ユニチカ株式会社
 創立 明治22年6月19日
 資本金 26,298,450,000円
 本店 兵庫県尼崎市東本町一丁目50番地
 大阪本社 〒541-8566
 大阪市中央区久太郎町四丁目1番3号
 電話06-6281-5722
 (人事総務部法務グループ)
 東京本社 〒1103-8321
 東京都中央区日本橋室町三丁目4番4号
 電話03-3246-7540 (東京総務部)
 研究所 中央研究所 (宇治)
 事業所 宇治事業所・岡崎事業所・貝塚事業所
 垂井事業所・豊橋事業所・常盤事業所
 宮川事業所・坂越事業所
 営業所 名古屋他
 従業員数 連結 4,503名 単体 1,261名

役員 (平成25年9月30日現在)

代表取締役社長執行役員	安江 健治
代表取締役専務執行役員	山口 裕正
取締役常務執行役員	注連 浩行
取締役常務執行役員	松永 卓郎
取締役常務執行役員	上埜 修司
取締役常務執行役員	阪田 誠造
監査役(常勤)	菅原 健一
監査役	吉田 俊朗
監査役	半林 亨*
監査役	軒原 正夫*

*は社外監査役

執行役員 (平成25年9月30日現在)

上席執行役員	田頭 弘美
上席執行役員	永田 直彦
上席執行役員	榎田 晃
上席執行役員	長谷川 弘
執行役員	小畑 政信
執行役員	細田 雅弘
執行役員	森川 光洋
執行役員	竹歳 寛和
執行役員	富岡 弘之

株主メモ

事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日まで

定時株主総会 毎年6月

基準日 定時株主総会 3月31日
剰余金の配当 期末 3月31日
中間 9月30日

公告方法 電子公告（当社ホームページに掲載）
<http://www.unitika.co.jp/ir/notice/index.html>
ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告ができない場合は、日本経済新聞に掲載する。

株主名簿管理人 三菱UFJ信託銀行株式会社
特別口座管理機関

同連絡先 三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部
〒541-8502
大阪市中央区伏見町三丁目6番3号
電話 0120-094-777（通話料無料）

（ご注意）

1. 株券電子化に伴い、株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関（証券会社等）で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人（三菱UFJ信託銀行）ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
2. 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関（三菱UFJ信託銀行）にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店でもお取次ぎいたします。



見やすいユニバーサルデザイン
フォントを採用しています。

UD FONT

環境に配慮した植物油
インキを使用しています

